

北茨城民報

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市政報告

ご相談は
お気軽に

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

収束作業の困難を痛感

北茨城市議会、福島第一原発を視察

5月22日、北茨城市議会で福島第一原発を視察しました。参加した鈴木やす子議員のレポートです。



この視察は、鈴木和栄議長が、福島県に隣接する市

として、かねてより東電に要望していたものです。議員18人と事務局2人の20人で、Jヴィレッジで用意されたバスに乗り、現場に入りました。

所持品は、放射能汚染が判明すれば没収となるので、持ち込みが認められるのは身分を証明する運転免許証のみです。入退出の出入りは、マスクと手袋、靴カバー

6月議会の日程

平成26年度第2回市議会の日程案は次のとおりです。一般質問日は、6月9日、10日に予定されています。いずれも10時開会です。

- 6月3日(火) 本会議(議案説明)
- 6月9日(月) 一般質問
- 6月10日(火) 一般質問
- 6月11日(水) 産業建設委員会
- 6月12日(木) 文教厚生委員会
- 6月13日(金) 総務委員会
- 6月17日(火) 本会議(採決など)

という最低限の防備と個人線量計の携行とで、嚴重なゲートを通ります。被ばく放射線量は、構内滞在約1時間で10マイクロシーベルト、前後の移動あわせて、推定12マイクロシーベルトでした。視察者はバスから降りないで通過するだけですが、汚染された中で重装備で作業する方の苦勞はいかばかりか。作業員の作業環境の劣悪さ、休憩場所もないことなどが問題になりましたが、3年が経つてようやく、作業員専用の建屋が建設中とのことでした。敷地内の配管・配電設備は、少しは整理されたという事です。それでも、地面はまるで道路工事のよう、そこを這うように太い導管が何本も束ねられ、めぐらされています。原子炉建屋はすでにむき出しではなく、カバーがかかっています。しかし、1、3号機は放射線量が高く、機械による遠隔作業しかできない状態です。かろうじて、4号機周辺は線量が比

福島第1 事故収束なお遠い 国会・福島・鹿児島島の共産党調査

日本共産党の笠井亮衆院議員(党原発・エネルギー)は、福島第一原発(福島県大熊町、双葉町)問題対策委員会責任者らと視察しました。党として19日、事故から3年2カ月の視察は昨年3月の志位和



汚染水処理設備の「ALPS」内で説明を聞く党視察団(19日、東電福島第一原発)

較的低く、現在燃料棒の取り出し作業中です。広い敷地内にあつた森林部分はほぼすべて切り開かれ、汚染水を貯蔵するタンクがずらりと並びます。事故前に来たことのある議員

が、以前の景色とのあまりの様変わりにショックだと話していました。現場で作業にあたられている方には心から敬意を表するものです。しかし、これからの作業の膨大さや困

難さも現場で痛感しました。先に視察した共産党議員団(右の記事)のコメントに、国の姿が見えないとありましたが、これほどの重大事故で、被ばく覚悟の過酷な作業、重ねて技術も確立され

個。タンクなどにたまった汚染水は約55万トンにもほります。汚染水対策の「切り札」とされながらトラブルが続き本格的な運転のめどがたっていない汚染水処理設備「ALPS」(アルプス)の状況をみた後、使用済み核燃料の取り出しが行われている4号機のアペレィティングフロアで東電の担当者から説明を受けました。

ていない。それなのに収束作業が一私企業にまかされ、国家プロジェクトで、すべての英知を注いであたるのでなければ、住民として安心などできないと改めて感じました。

夫委員長らに続くもの。笠井議員は、「汚染水対策の見通しもなく、現場で『前面に出る』という国の姿は見えない。私は3回目の視察ですが収束と程遠い状況にあることを改めて痛感しました。安倍政権はその責任も果たさず原発再稼働に突き進むことは許されないと話しました。視察団は笠井議員と、党福島県議団(神山悦子団長)の5人、九州電力川内原発の地元、鹿児島島のまつき真琴県議、同県薩摩川内市の井上勝博市議ら。小野明・福島第一原発所長が、事故時に点検で稼働していなかった4号機では使用済み核燃料棒の取り出しが行われているものの、1、3号機はまだ高線量で機械による遠隔作業しかできない実情を説明しました。森が切り開かれ、汚染水を貯蔵するタンクがずらりと並びます。その数、1千

0人の労働者が被ばくの危険にさらされながら、汚染水対策など膨大な作業にあつています。訪れた「免震重要棟」で笠井議員は、「過酷な状況のなか日夜奮闘している現場のみなさんに敬意を表します。国に対し、総力と英知を結集した対策とともに、労働者の健康管理と安全確保を求めています」と激励しました。鈴木議員は、この判断を評価し、子どもたちの学習成果を判断するなら抽出でも充分で、予算はぜひ教師の増員に当ててほしいと提案しました。これには教委も同意していました。また、30年来続く茨城県独自の学力テストについても報告を受けました。

学テ結果は公表しない